

Bibliophiles

ビブリアファイルズ No.6(2021年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館

(ここで紹介するのは新しい本の一部です。)



『子供が夢を確実に叶える方法 そのために親がすべき 29 のこと』伊藤美乃り

今回のオリンピックの卓球で金ダルを含む3つのメダル受賞という輝かしい成績を残した伊藤美誠。しかし彼女は小学6年生の時の作文で「2020年には、団体優勝、個人戦で優勝したい」とすでに宣言していたんです！この本の著者は、彼女の母親の美乃りさんで、美誠さんの卓球の才能を花開かせるためにどんなことをしてきたか、を細かく書いています。個人的に驚いたのは、美誠さんを卓球好きにするためにお母さんが妊娠中にやったことです・・・続きはぜひ、図書館で。

『ボードレール全詩集 I

悪の華ほか』C・P・ボードレール

今日では象徴派詩の先駆とされ、ドビュッシーはじめ数多くの作曲家が歌曲作品に仕立て上げた名詩集、『悪の華』。しかし表現の自由がなかった当時のフランス当局により、「公序良俗を乱した」ということで6篇が発禁処分となり、詩人は罰金刑を受けてしまいます。今読むと、その「発禁」の詩の表現は非常に官能的で「これは19世紀ならあかんやろ」と妙に納得。(笑) お試し下さい。

『武器になる哲学』 山口 周

筆者は大学で哲学を学んだあと、企業の課題点を指摘し改善させるという経営コンサルタントとして成功した、異色の経歴の持ち主です。そんな彼が書いたこの本は、ビジネス・パーソンに向けた哲学の本。多くの方は「哲学って実社会じゃ役に立たないよね」と思っているようですが、逆に山口氏は「世界の建設に携わっているビジネス・パーソンにこそ哲学・思想のエッセンスを知っておいて欲しい」と言います。哲学が実社会でどんな風に役立つのか、興味のある人はぜひ読んでみて下さい。

『赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。』 青柳 碧人

「昔話と謎解きミステリーの融合」という独自のスタイルの小説で人気の青柳氏の最新作。今回の舞台は日本ではなく、西洋の昔話の世界で、主人公はグリム童話などでお馴染みの「赤ずきん」。昔話ではオオカミに食べられるだけのキャラクターだった彼女が、この本では「名探偵」として数々の事件を解決していきます。決めゼリフは「あなたの犯罪計画はどうしてそんなにずさんなの？」

『海外の有名大学に、リモートで留学する』 姫松 冬紫

日本人の海外留学が減少しています。ピークだった2004年の8万3千人に比べて2016年は5万6千人と、32%も減っているんですね。その理由も色々でしょうが、やはり「学費が高い！」という要因が大きいみたいです。それならば通信制(リモート)での留学はいかがでしょうか？例えば超名門・ジョージア工科大の修士課程は通常約5万ドルなのに対して通信だと1万ドル程度。しかも、働きながらでも学べるのは魅力ですね。

『テスカトリポカ』 佐藤 究

山本周五郎賞と直木賞の「2冠」を達成した、話題の犯罪小説です。しかし臓器移植をはじめ人間のダークな面をつぶさに描いたこの作品は、直木賞の審査員の一部からスカンを食らってしまいました。「3時間に渡るすごい激論でした。私も長く選考委員をやらせていただいていますけど、初めてとっていいくらいの白熱した議論でした」(林真理子) こんな問題作が気になるあなたは、ぜひ。



海外文学の名作文庫本、色々と買い換えました！

ゴーゴリ『外套』は、あのドストエフスキーが「我々は皆ゴーゴリの『外套』から生まれ出たのだ」と語った、ロシア文学の源流です。またT・ウィリアムズの戯曲『ガラスの動物園』は岡田将生らの出演で来年1月に梅田で舞台上演されます。

『弱者でも勝てるモノの売り方 お金をかけずに売上を上げるマーケティング入門』上杉恵理子

大学の「経営学」や「商学」といった分野で学ぶ内容に「マーケティング」があります。これは市場(しじょう、market)から来た言葉で、市場でお客がどんな商品を欲しがっているのか、そのニーズを解明して商品開発に役立てるものです。「客が欲しいものを作る」ということですね。この本は、ふとしたことから喫茶店を引き継いだヒロインが、赤字から脱却するために自分の店の「強み」を知って店を再建するというストーリー。楽しみながら、マーケティングの基礎を学んでいきますよ。

『博物館が語る奄美の自然・歴史・文化』

西宮市と友好都市の提携をしている奄美市の、市立博物館が編集した公式ガイドブックです。奄美大島はアミノクロウサギなどの貴重な生物資源から、今年世界自然遺産に登録が決まりました。この本は、そうした奄美の豊かな自然ばかりでなく、奄美の太古からの歴史や食文化・伝統行事など、奄美の魅力余すところなく伝えています。

今号のひとこと

人を殺した者、地上で悪を働いたという理由もなく人を殺す者は、全人類を殺したのと同じである。人の生命を救う者は、全人類の生命を救ったのと同じである。 『コーラン』5章32節

(訳：日本ムスリム情報事務所)

最近、米軍が駐留していたアフガンから撤退し始めると、イスラム原理主義の「タリバン」がまたたく間にアフガンの主要都市を攻め落としてしまいました。タリバンは、意に沿わないアフガン国民を裁判など行わずに簡単に殺しており、「イスラムは怖い」というイメージをあらためて抱いた諸君もいるんじゃないかと思います。しかし『コーラン』の教えでは、ひと一人の命を奪うのは全人類の殺害と同じです。よく覚えておいて下さい。